

# 村松・林研究室

## [移動する社会と都市：20万年の歴史と未来]

生産技術研究所 人間・社会系部門

Department of Human and Social Systems

都市遺産・資産開発学・都市居住空間史

建築学専攻

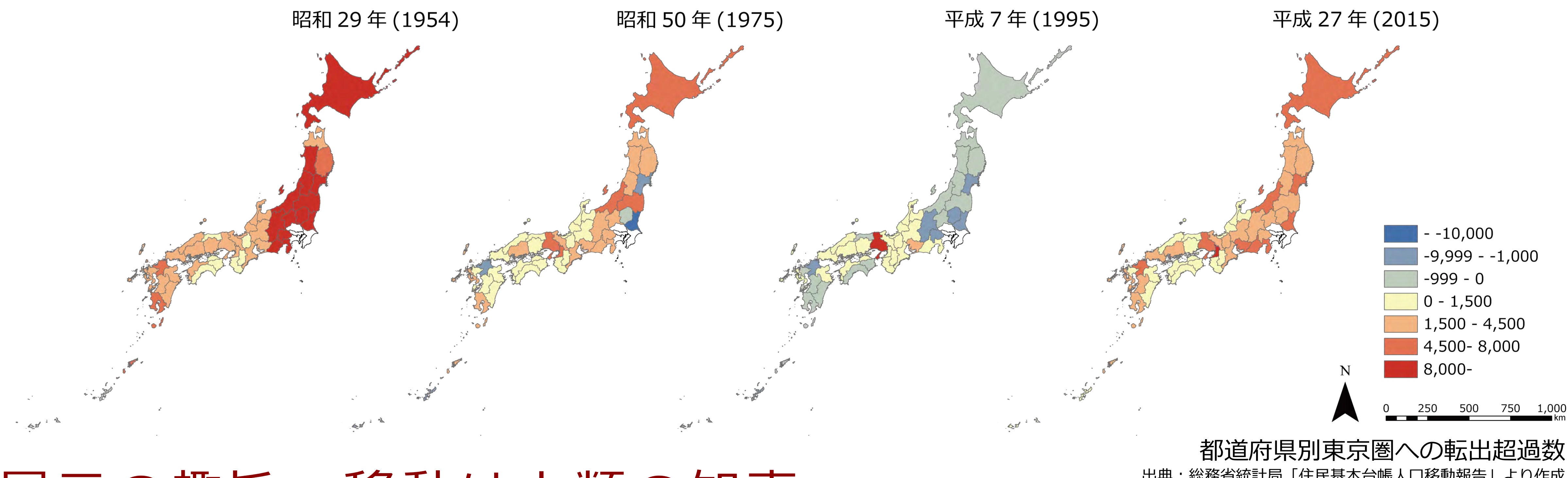
<http://www.shinlab.iis.u-tokyo.ac.jp>

### 歴史の役割

私たちの専門分野は、建築や都市の歴史です。人類の多種多様な経験を掘り起こし、私たちが生きる現代社会の特質を過去から鋭く洞察すること、それが私たちの役割です。例年キャンパス公開では、人類史を振り返り、現代の凝り固まった常識をほぐして、新しい建築や都市のカタチを構想するための展示を試みています。本年度の展示のテーマは「移動」です。移動という観点から過去を分析し、現代都市のあり方を問い直します。

### なぜ移動か？

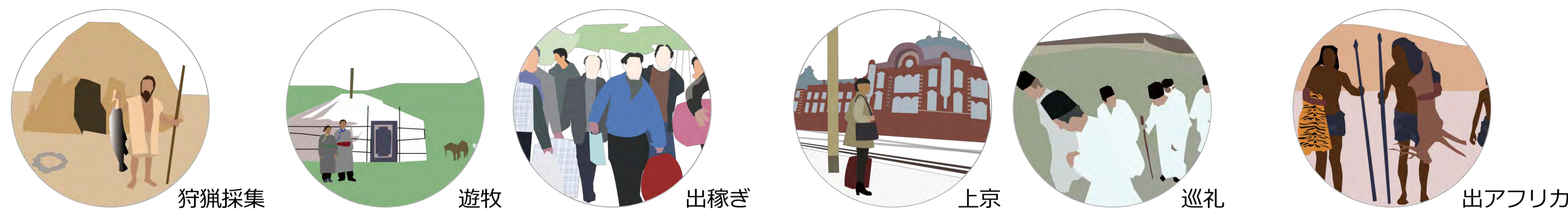
2007年、都市人口は世界人口の半数を超えました。21世紀は「都市の時代」だとも表現されます。しかしこの趨勢は、ここ200年ほどの農村から都市への人口移動によるものです。近現代のこうした移動は、大きな経済成長をもたらした一方で、環境負荷の増大や過疎化など、環境や社会の深刻な問題を引き起こしています。この先の「都市の時代」を生き抜くには、近現代の移動スタイルの再考が求められています。



### 展示の趣旨：移動は人類の知恵

私たち現生人類（ホモ・サピエンス）は、およそ15万年から20万年前にアフリカの大地を出て、世界中へ拡散したといわれています。人類にとって移動は、異なる環境に身を移しながら、生存の拡大を図る一つの知恵です。近現代の移動スタイルはたしかに問題を引き起こしていますが、それとは別のさまざまな移動スタイルを駆使しながら、自然環境にうまく適応して経済や社会の発展を遂げた、という歴史も人類にはあります。

そこで今回の展示は、①近現代社会の移動の特徴を示すとともに、②人類史から近現代が忘れかけている移動の知恵を発掘し、それらが環境や社会に与える正の効果を考察します。21世紀の新たな移動型社会を構想するための糧となる展示を目指します。



日常的な移動

季節性の移動

数十年に一度の移動

世代を超えた移動

移動頻度に着目した移動スタイルの違い

